

これまで、大阪市立大学(現大阪公立大学)大学院医学研究科公衆衛生学教室と共同で、食事調査法の開発に取り組んできました。従来の食品中心のデータベースに料理の概念を導入し、この中で、一般的な食物摂取頻度調査法(FFQ)の開発方法を確立しました\*1,\*2。その成果として、実物大写真集を用いる半定量食物摂取頻度調査キット「実寸法師」の開発にも携わりました。この方法は小児用の FFQ 開発などに応用されています。

2001 年から日本脊椎脊髄病学会診断評価等基準委員会作業部会にアドバイザーとして参加し、「日本整形外科学会腰痛評価質問票(JOABPEQ)」「日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問票(JOACMEQ)」の開発\*3に参画しました。ここでは、因子分析や判別分析など多変量解析の手法を適用しました。

2005 年の医薬品・食品効能評価センター開設以降、食品効能評価試験や大規模多施設試験を含む自主臨床研究などで、生物統計家として統計解析責任者や割付責任者を務めました。データマネジメントシステムの整備にも努め、PC 版症例割付システムや Web 版症例割付システムの開発やデータクリーニングの自動化システムの構築も行いました

\*1: 伊達ちぐさ、福井充他、新しい食物摂取頻度調査法の確立をめざして—再現性と妥当性の検討—、(1995) 厚生指針 第 42 巻 p22-29

\*2: 伊達ちぐさ、福井充他、食物摂取頻度調査開発技法、(1998) 栄養学雑誌 第 56 巻 p313-325

\*3: M.Fukui, K.Chiba et al. JOA Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ)/JOA Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) The report on the development of revised versions April 16, 2007.(2009) J Orthop Sci, 14, p348-365